

2025年度 シンポジウム
外国人児童生徒等教育を担う教育者・支援者の育成
— 『多様性の包摂』の実現に向けて—
2026年1月31日 13:00-17:00

東京学芸大学・先端教育人材育成推進機構・
外国人児童生徒教育推進ユニット 2025

オンライン研修「多様性が活かせることばの教育2025」

研修B

幼・小・中・高の学びの連続性を保障することばの教育

谷 啓子・米本 和弘・見世 千賀子

本資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。

〈研修B 趣旨〉

日本語を学ぶ子どもたちの心身の成長発達や子どもたちを取り巻く環境をふまえながら、スムーズな学校での受け入れや指導事例、そして、**幼・小・中・高等学校間の学びの連続性**を重視した支援について、一緒に考えます。

本外国人児童生徒教育推進ユニットで作成した動画（参加者限定公開）の事前視聴と講義により基礎的な情報や知識を学び、実践例の報告・紹介を通して日本語指導や学習支援のイメージをつくり、ワークショップ型の活動を通して、明日からの指導・支援に生かせる具体的なアイデアを考えます。

なお、初めて日本語指導を担当することになった先生方や支援活動を始められた支援者の皆さんを主な対象として内容を構成しております。

本ユニットHPより

2025年度 研修B 幼・小・中・高の学びの連続性を保障することばの教育

～全3回の日程とテーマ〈参加者数〉～ ＊各回13:30-16:00(2.5H)

対象:「今年初めて」「まだ、経験は数年」という日本語指導・支援に携わる学校教員、支援員、指導者の方

第1回 6/8(日) 〈112人〉

子どもの持てる力と経験を新たな学びにつなぐ
～初期支援と活動のアイデア～

第2回 7/6(日) 〈116人〉

探究する力・自律的に学ぶ力を高める
～日本語と教科の統合学習～

第3回 8/3(日) 〈101人〉

アイデンティティと関係づくりを支える
～ことばの教育実践を通じて～

各回において
‘幼・小・中・高の学びの連続性’の大切さを意識
(例)
子どもの発達に関する基礎的な講義
異なる学校種からの事例報告

各回の資料や報告書は、本ユニットのHPからご覧いただけます。
<https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/>

2025年度 研修B 幼・小・中・高の学びの連続性を保障することばの教育

～各回の構成～

事前動画視聴 20分

.....

趣旨説明 10分

講義 30分

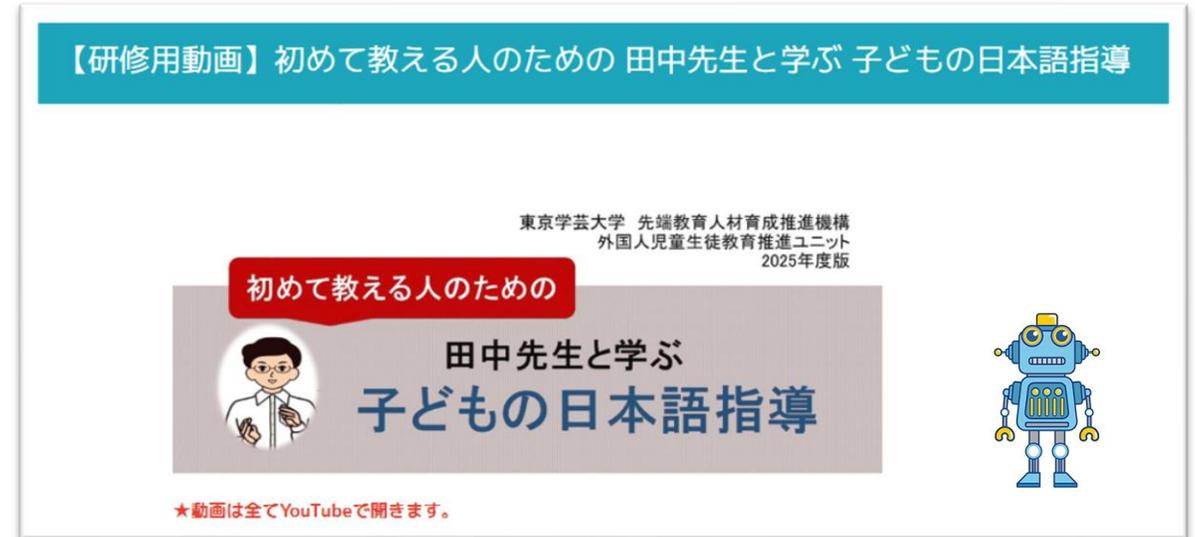
事例報告 50分

〈休憩〉

テーマに関するグループワーク 40分

全体共有 10分

↓
アンケートによるふりかえり



～各回の内容と講師・事例報告者～

第1回 6/8(日) 子どもの持てる力と経験を新たな学びにつなぐ～初期支援と活動のアイデア～

- ・講義「来日直後の受入れ体制と初期日本語支援」 谷 啓子(東京学芸大学)
- ・事例報告「‘学びの連続性’と‘自分らしく’

～小学生と中学生と一緒に学ぶ『みらい西』の事例より～

坂柳言衣(豊橋市市立羽田中学校／豊橋市豊橋初期支援コース「みらい西」)

企画側と事例報告者が事前にテーマを意識的に共有

第2回 7/6(日) 探究する力・自律的に学ぶ力を高める～日本語と教科の統合学習～

- ・講義「成長段階に応じた学ぶ力を高める日本語と教科の統合学習」 見世千賀子(東京学芸大学)
- ・事例報告①「ことばの力で学びをひらく～にじ「浜北教室」における日本語と教科の統合学習～

佐々木しのぶ(浜松市立浜北北部中学校／初期日本語指導拠点校にじ「浜北教室」)

- ・事例報告②「在籍学級の学習活動につなげる日本語指導

～光村図書2年(上)「たんぽぽのちえ」におけるJSLカリキュラムの考えに基づく授業実践～」

田中寛子(目黒区立東根小学校日本語国際学級)

第3回 8/3(日) アイデンティティと関係づくりを支える～ことばの教育実践を通じて～

- ・講義「ことばとアイデンティティについて考える～長島先生のライフストーリーをもとに～」

米本和弘(東京学芸大学)

- ・事例報告「教員としての考え方と実践の共有」 長島ヒデキ(岐阜大学教育学部附属小中学校)

◆学びをつなぐ

各回において
‘幼・小・中・高の**学びの連続性**’の大切さを意識

(2) 就学前・小・中・高等学校の学びをつなぐ①



2 文化間移動をする子どもの学び

- ・机に座っている時間が長くなる
- ・先生との関係の変化
- ・時間割で動く 等

小学校6年間は
成長の幅が大きな時期



担任

どうも指示が理解できていないみたい。
皆と一緒に動けない...
授業についていくのが大変みたい

うちの子は小さい頃から日本にいて、
話せるから日本語クラスには
行かなくていいよね



保護者

内田千春 (2021) 「就学前教育・保育の視点から教育格差を考える：言語文化的に多様な子どもたちと接続期の支援」『異文化間教育』54, pp.19-38

接続期
学校と家庭の文化差が大きいと
子どもの負担も増 (内田2021)

参考：第1回講義資料より

◆学びをつなぐ

生活的概念から科学的概念へ

幼児期

児童期

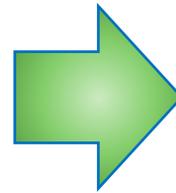
青年前期

青年後期

生活的概念

科学的概念

例) 生活の中で氷と水、水と蒸気の関係を経験



ヴィゴツキー, L.S./柴田義松(訳) (2001) 『新訳版・思考と言語』新読書社

本山方子 (2019) 「自律的な学習への転機」外山紀子・安藤智子・本山方子編『生活のなかの発達—現場主義の発達心理学—』新曜社, pp8

イラストAC/個体・液体

参考：第1回講義資料より

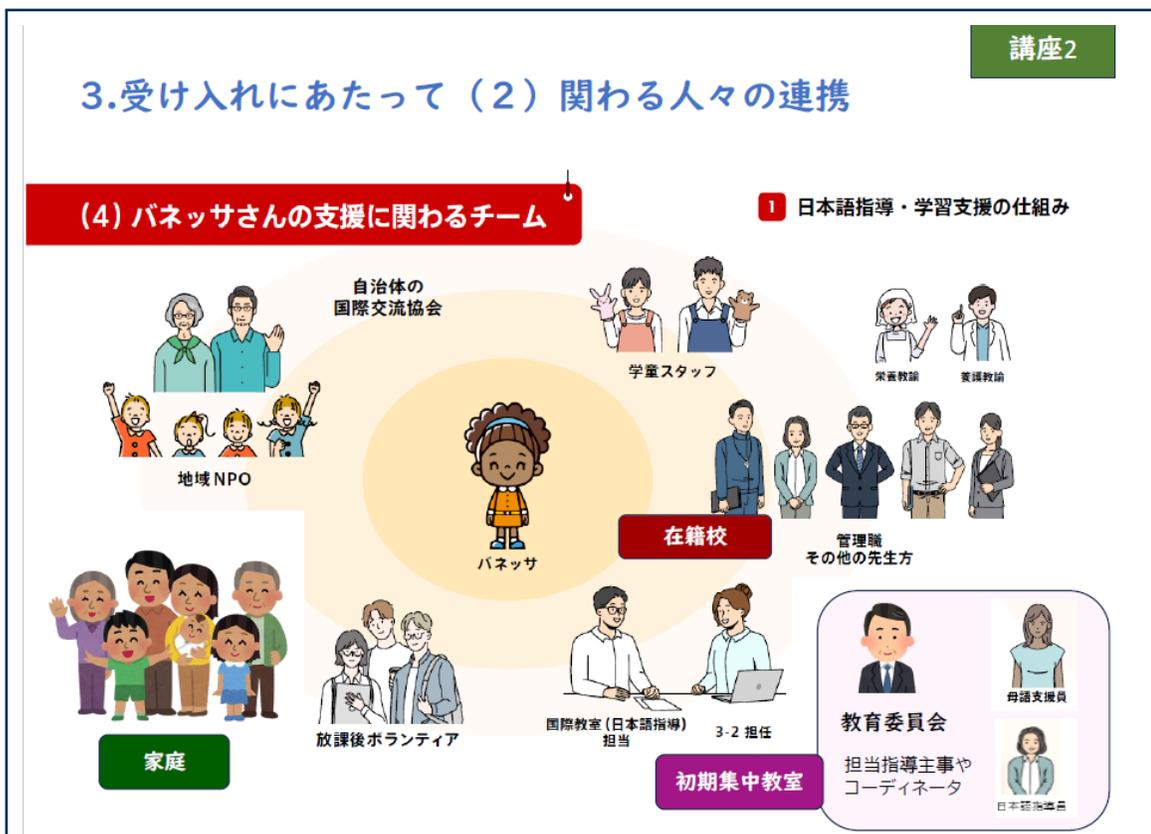
第1回 6/8(日) 子どもの持てる力と経験を新たな学びにつなぐ

～初期支援と活動のアイデア～

- ・講義「来日直後の受入れ体制と初期日本語支援」 谷 啓子(東京学芸大学)
- ・事例報告「学びの連続性」と「自分らしく」

～小学生と中学生と一緒に学ぶ『みらい西』の事例より～

坂柳言衣(豊橋市市立羽田中学校／豊橋市豊橋初期支援コース「みらい西」)



「みらい西」のプログラム (※丸数字は右下の教材と対応)

中学生 (10週間)		～2週	～4週	～6週	～8週	～10週
サバイバル日本語		①stage1 サバイバル	この後は、生活の中で頻出語彙や表現をその都度取り上げて指導			
基礎 日本語	文型		①stage2-1 名詞文	①stage2-2 動詞文・形容詞文		
	学習方略	ギガ端末の使い方	①提出物・授業の受け方	①辞書引・授業の振り返りの書き方		
日本語別	読む	文字・語彙	②ひらがな・語彙	③カタカナ・語彙	④漢字	
	書く	日記 マイヒストリー (卒業文集)	母語日記		日本語日記	
日本語と教科の統合学習	JSL 数学 その他の教科	⑥小学校段階の基礎計算や中学数学の内容と日本語を同時に学ぶ JSL 数学指導				
中学校生活適応		⑦給食・教室の席・時間割・教科の先生・国際の先生にインタビュー・日本人の名前など				
総合学習・キャリア		SDGs、進路ガイダンス、学校行事、年中行事など				

小学生 (8週間)		～2週	～4週	～6週	～8週
サバイバル日本語		①1～18課 サバイバル	この後は、生活の中で頻出語彙や表現をその都度取り上げて指導		
基礎 日本語	文型		①19～27課 名詞文	②27課～ 動詞文、形容詞文	
	学習方略	ギガ端末の使い方			
日本語別	読む	文字・語彙	②ひらがな・語彙	③カタカナ・語彙	④漢字
	書く	日記 マイヒストリー	母語日記		日本語日記
日本語と教科の統合学習	JSL 算数 その他の教科	⑥基礎計算など教科の内容と日本語を同時に学ぶ JSL 算数指導			
小学校生活適応		⑦給食・教室の席・時間割・教科の先生・国際の先生にインタビュー・日本人の名前など			
総合学習・キャリア		SDGs、進路ガイダンス、学校行事、年中行事など			

小学校高学年の児童が中学生用テキスト「みらいの日本語」を使用することもある。

使用教材 (表中の番号と対応)
 ①豊橋市教委「みらいの日本語」
 ②豊橋市教委「小学生の日本語」
 ③豊橋市教委「ほんごワークブック (1) ひらがな」
 ④豊橋市教委「ほんごワークブック (2) カタカナ」
 ⑤NPO多言語多読「日本語多読ライブラリー」
 ⑥豊橋市教委「みらいの算数」
 ⑦(2)(3)「みらいの数学No.1」
 ⑧市教委「mission possible」

「学びの連続性」 **「自分らしく」**

参考：第1回研修資料より

第3回 8/3(日)アイデンティティと関係づくりを支える

～ことばの教育実践を通じて～

- ・講義「ことばとアイデンティティについて考える～長島先生のライフストーリーをもとに～」
米本和弘(東京学芸大学)
- ・事例報告「教員としての考え方と実践の共有」 長島ヒデキ(岐阜大学教育学部附属小中学校)

アイデンティティとは何か？

自然的 (Nature-identity) :

基本的に変えようのない属性 (例: 女性、双子)

制度的 (Institution-identity) :

制度や規則に基づき与えられる役割 (例: 学生、教員)

言説的 (Discourse-identity) :

対話や行動を通じた他者からの認識 (例: 思いやりのある人)

共鳴的 (Affinity-identity) :

特定の集団への参加を通じて構築される意識 (例: 趣味仲間)

Gee, J. P. (2000). Identity as an analytic lens for research in education. *Review of Research in Education*, 25, 99–125.

子どもとの信頼関係構築

- ・理想像 (児童生徒にとっての安全基地)
- ・言語はその個を象るアイデンティティの一つ
- ・特別扱いではない



参考：第3回研修資料より

令和6年度研修からの改善点 ①豆の木モデルでの目標設定の徹底

第1回 6/8(日)

子どもの持てる力と経験を新たな学びにつなぐ
～初期支援と活動のアイデア～

広報の段階でHPにて各回で
「目指す資質能力」を明示

【捉える力】「子どもの実態の把握」ア・イ
【育む近力】「日本語・教科の力の育成」ケ・コ・セ
【つなぐ力】「学校づくり」テ

第2回 7/6(日)

探究する力・自律的に学ぶ力を高める
～日本語と教科の統合学習～

【育む力】「日本語・教科の力の育成」
コ・サ・ス・セ

第3回 8/3(日)

アイデンティティと関係づくりを支える
～ことばの教育実践を通じて～

【捉える力】「子供の实態の把握」ア・イ
「社会的背景の理解」ク
【育む力】「日本語・教科の力の育成」シ・セ
「異文化間能力の涵養」タ・チ
【変わる／変える力】「共生社会の実現」ヒ

令和6年度研修からの改善点 ①豆の木モデルでの目標設定の徹底

第1回 「子どもの持てる力と経験を新たな学びにつなぐ ～初期支援と活動のアイデア～」

第1回参加者募集の際の
ユニットHPより

<ねらいとする資質能力>

	資質能力	教師に求められる具体的な力
第1回	捉える力	ア 子どものシグナルを見逃さず、文化間移動と発達の視点をもってその困難さを理解することができる。 イ 子どもの心理的状況を文化適応や家庭の状況に関連づけて理解することができる。
	育む力	ケ 外国人児童生徒等の受け入れ体制・指導体制に応じて、指導・支援を行うことができる。 コ 第二言語習得や教育方法に関する知識を踏まえ、子どもの年齢的な発達の違いを考慮した日本語や教科の指導・支援をすることができる。 セ 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本語や教科の指導・支援、内容（教科等）と日本語を統合した指導・支援をすることができる。
	つなぐ力	テ 外国人児童生徒等教育を学校の教育課題に位置づけ、学校全体で取り組むよう働きかけることができる。

各回冒頭で確認、最後に各自がアンケートでふりかえり



令和6年度研修からの改善点 ②ワークの改善

各回の構成

〈事前動画視聴〉

趣旨説明

講義

事例報告

テーマに関するグループワーク
アンケートによるふりかえり

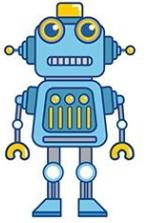


第3回資料より
言語ポートレート
(個人作業)

改善点

- ・課題設定、作業等、**初任者**が参加しやすいように焦点化
- ・明日からの指導支援に活かせるような体験(第1回)
- ・現場や立場の異なる支援者同士の交流の側面も重視する(第2回)*
- ・グループワークの前に個人の作業時間を設ける(第3回)

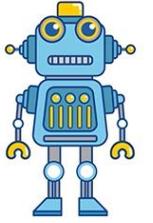
参加者アンケートから



幼・小・中・高の学びを連続したプロセスとしてとらえる視点の形成

- ライフコースに沿ってキャリア形成を子どもたちが考えていけるように、**学校での日本語指導を発達段階に応じて考えて行く必要がある**ことを改めて学びました。
(第1回)
- 同じ教材でも、異学年で最終のゴールを設定して、活動を組み立てることができること。また、その学年がやっている活動をそのまま追いかけるのではなく、**その子どもがクラスでできることを取り上げてカリキュラムを組んでいく**ということが大切だと感じた。(第2回)
- **幼少期から成人までの流れ**について、経験者の方が直接語るのを聞くことは貴重でした。(第3回)

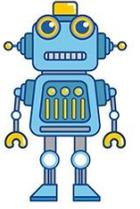
参加者アンケートから



目標の明確化と自己評価を通じた自身の実践の再点検

- 初期指導と学校生活の結び付け方がよくわかりました。学校と切り離されている指導になっていないかいつも気になっていたのです。(第1回)
- 在籍級での学習内容全てをやろうと思ってしまうあまりに大切なところをきちんと学習できていないと反省しました。(第2回)
- 今日学んだことをいつも心に留め置きつつ、日々の活動を行い、その中の瑣末なことでも繋ぐことができれば良いのかなあと考えています。(第3回)

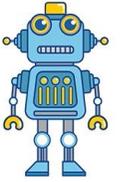
参加者アンケートから



明日から活かせる具体的な実践のイメージの獲得

- ワークショップで言葉をつくる活動がよかったです。**児童とも一緒にやってみたい**と思いました。(第1回)
- 今日の授業を通して、**生徒はどんなお土産を持ちかえることができるのか(何を学ぶのか)**を意識して授業づくりをしたいです。(第2回)
- 言語ポートレート作成とそれに関して話をすることも面白かったです。**支援の場でやってみたい**と思います。(第3回)

参加者アンケートから（次年度への課題）



研修での学び・気づきの実践への応用の難しさ

- 発達段階に応じた指導を心がけていますが、**同学年でも環境等により、ひとりひとり違うので難しさを感じます。**（第1回）
- 日本語が分からない児童生徒は、一斉授業ではお客さんでいる時間が多くなり、…（中略）…現実的な解決が難しいのだと聞かせていただき、考えさせられました。**どうしたらいいんだろうと、いつも思います。**（第3回）

地域や立場による違いからくるギャップへの戸惑い

- 初期支援を…（中略）…**小中学校教員が担うのか、日本語指導の専門家に担ってもらえるのか、**現場の経験やこのような研修を通して研究していきたい（第1回）
- 実践例は素晴らしすぎて、**自分の地域の遅れ**を改めて知らされました。実現に向けてどのようにアプローチすればいいのか、難しさをより感じてしまいました。（第2回）